

学校 教育 目標	○ともだち いっぱい かがやく こ (知) 学ぶことの意義や楽しさを感じながら主体的に学び続ける子どもを育てます (徳) 自他のよさを認め合い、成長する子どもを育てます (体) 運動に親しむ習慣を身に付け、心身共にたくましく生きる子どもを育てます (公) 地域とつながり、自分たちのまち横浜、都筑を大切にすることを育てます (開) 様々な価値観を認め共に生きようとする子どもを育てます				
	創立 30 周年 児童生徒数: 540 人	学校長 岸 俊介	副校長 伊賀 夏奈子	2 学期制	一般学級: 18 個別支援学級: 6
学校 概要	主な関係校: 中川中学校				

<b>教育課程全体で 育成を目指す資質・能力</b>	<b>中川中 ブロック</b>	<b>小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組</b>
○主体的に考え、粘り強く学ぶ力 ○他者と協働し、多様な価値観を認め合う力 ○新しい価値観をもって、成長しようとする力	中川中学校 中川小学校 南山田小学校 牛久保小学校	○まちに住む一員として、地域とのつながりを大切に ○自分を大切にするとともに、他者への心遣いができる子 ○自分の思いを表現しながら豊かな学び合いができる子 ----- ・6年生による中学校訪問、中学生との交流を継続的に ・授業を伴いながら、中学校との指導内容、指導方法の連携を図ります。 ・教師間の交流、情報交換を積極的に行います。

<b>中期 取組 目標</b>	3年間を通して、以下の5つの目標に向け、教育活動に取り組んでいきます。 ・(知) 質の高い学びの実現に向け、ICTを効果的に活用し、「もっと○○したい。」と自ら学び続ける子を育てます。 ・(徳) 自己有用感を高めるとともに、規範意識・人権意識を育み、互いに尊重し合える子を育てます。 ・(体) 「食事・睡眠・運動」への理解を深め、自分に合った生活や運動に取り組める子、非常災害の知識を身に付け、自ら行動する子を育てます。 ・(公) 地域の歴史や伝統文化を学ぶとともに地域の方々との交流を深め、「横浜・都筑」を愛する気持ちを育てます。 ・(開) 多文化共生の理念のもと、多様性を尊重し、地域や社会に貢献しようとする心を育てます。
-------------------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①子どもの目指す姿をより具体的に学年間で共有する。教科の特性に応じた「資質・能力」として子どもの姿を教師側が再定義していく。 ②形式的な対話にとどまらず、子ども自身が「学び方」を身に付け、興味関心を高めるための手立てを充実させていく。 ③子ども自身が「学びのプロセス」を客観視できるようなツールを活用し、メタ認知を促す授業づくりに取り組む。
担当	学習指導部	
徳	豊かな心	①なかよしペア活動を行い、相手を思いやる気持ちを大切に、互いに支え合う態度を育てる。交流の機会を増やすために、教科の中で意図的にペア活動に取り組みよう。各学年の教科領域のカリキュラムを確認し、計画を立てるようにする。 ②運動会等の学校行事を通して、豊かな感性や情操を養い、表現する喜びを感じながら自己肯定感を高める。 ③相手の立場や人権を尊重する大切さを理解できるように、日常生活や人権週間を中心として発達段階に応じた取組を行い、実践への意欲をもてるようにする。また、南山田いじめ防止基本方針を見直し、人権の視点でも年間計画を作成、実施する。
担当	児童支援部	
体	健康安全教育	①運動への理解を深めるために、体育科基本調査や体カテストのデータを活用したり、学習カードや場の設定を工夫したりして、学校として体育科学習の充実をはかる。(A研・体育部と連携) ②給食と食育を通して、健康的な食生活や栄養の重要性について理解を深める。(ばくばくだよりの活用や食育部との連携等) ③避難訓練を、さまざまな非常災害を想定し行う。また、自分の身の守り方を考え、臨機応変に判断・行動できるような安全教育を行う。 ④学校保健委員会を通して、自他との関わりについて学べるようなことを取り入れる。(心身の健康)
担当	健康安全指導部	
公 開	自分づくり (キャリア教育)	①南山田のまちにある豊かな人材や専門家との関わりが単発のイベントにとどまることなく、年間を通じた計画的・継続的な教育活動として展開していく。 ②「地域から教えてもらう」という一方の関係だけでなく、児童が地域社会の一員として他者との継続的な関わる視点を教育課程に位置付ける。児童が地域の一員として自己肯定感を高め、自らのキャリア形成へと繋げるサイクルを確立していく。
担当	学習指導部	
いじめへの対応		①毎月及び随時の「いじめ防止対策委員会」を開き、教職員全体でいじめの実態把握と未然防止を継続して行う。学年等で情報共有を行い、早期発見・解決に努める。南山田いじめ防止基本方針を見直し、人権の視点で年間計画を作成、実施する。 ②YPアセスメントとともに児童の様子を把握し、子ども面談の実施や日常的に相談できる環境を整え、児童の想いを受け止める。 ③児童のケース会議にSC.SSWにも参加してもらい、適切な対応を考えていく。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)		① 授業研究・メンターチームの改善 授業研究の年間テーマを明確化し、計画的に教材研究と研究会を実施する。 ② メンターチームは定例の支援日を設け、若手への支援内容を可視化して質を高める。 ③ 会議精選と教材研究時間の確保 放課後会議の提案者の裁量権を大事にし、議題を事前精選して効率化する。 削減した時間を「教材研究・個人業務時間」としてできるだけ確保し、業務の簡素化とICT活用で教材研究の効率を向上できるようにしていく。
担当	教務部	
児童指導		①学校で定めた生活目標について、学級で話し合い、学級の実態に合わせた「めあて」を設定し、具体的に取り組むとともに、振り返りの仕方学級で決めて振り返るようにする。 ②学年で担任を交代して、給食や掃除の指導をする。さらに、専任やTMもスキルタイムや給食・掃除に関わることで学年学校全体で、児童理解をするように努める。
担当	児童支援部	
特別支援教育		①誰もが安心して過ごせる学級を目指し、ユニバーサルデザインを取り入れた教室環境づくり、授業づくりを続ける。 ②個々のニーズに対応できるよう、支援体制の環境を整え、システム化できるようにしていく。 ③個別支援学級のことを知ってもらうための支援や取り組みを引き続き行っていく。
担当	特別支援委員会	
地域連携		①地域と共に歩む学校を目指し、PTAや地域(見守り隊・学習協力者等)の協力を得ながら、継続して社会に開かれた教育課程を実践していく。幼保小連携を中心に、地域の方との連携を深め、協働性や多様な価値観を価値付ける。 ② 懇話会・学校運営協議会・学校だより・学校ホームページ等を通して教育活動を継続的に発信し、地域の理解と協力を高める。特に、学校ホームページの更新頻度を向上させ、よりタイムリーな情報提供に努める。 ③地域コーディネーターと連携して、校内での学習補助や校外での生活科・総合的な学習の時間等の学びの充実に向けた地域との関わりを実現する。また、社会情勢や本校の児童の想いを基にした、地域との持続可能な繋がりを模索していく。
担当	情報連携部	